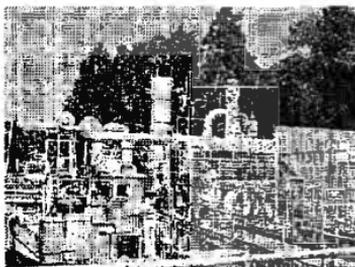


白石綿の溶融 処理実験を公開

日本環境保全



【つくば】日本環境保全（茨城県牛久市、和田力社長）は三十日、アスベスト（石綿）を溶融処理できる小型炉Ⅱ写真Ⅱで飛散しやすい白石綿を処理する実証実験を公開した。四月に実施した吹き付け用の青石綿の処理

試験に続くもので、新たに連続投入装置を装着した。

実験は袋から取り出した白石綿に水を加え、連続投入装置で炉に投入。断続的に三百キログラムの白石綿をセ氏千四百五十度程度の高温で溶融処理した。

溶融炉は茨城大学と共同で開発した油と水を混ぜて高温で燃焼するバーナーを使い、セ氏千四百五十一千八百度の高温で処理が可能。六月下旬に茶石綿の処理実験も行った上で、本格的に売り出す。

引用)2006年5月31日 日経産業新聞(p.19)

ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社